

倫理法人会は、全国を七つの方面に分割しています。倫理研究所法人局の研究者がそれぞれに方面担当として管轄し、運営の指導にあたる体制をとっています。

A 研究者もその一人として、方面内の役員会への出席や幹部研修、モーニングセミナーの講師として出向く毎日です。そのA 研究者が、ある倫理法人会のモーニングセミナーに赴いた時のことです。

通常、役員は集合した後、開始三十分前から、お迎えの体制を整える「役員朝礼」を実施します。モーニングセミナーをより良い学びの場とするために実施する、言わば「事前準備」の一環です。

ところが、この倫理法人会では以前より、役員は一時間以上前から集まり、会場の設営を済ませて、セミナー開始一時間前から「役員朝礼のリハーサル」を行なっているのです。役員朝礼が「事前準備」であるならば、「事前準備の準備」を行なっていることとなります。

この日も通例に倣い、「役員朝礼のリハーサル」が実施されました。その中で挨拶実習を担当するリーダーが、マニュアルに記載されている通りのリードができず、先輩の役員に何度となく指摘を受けました。その場で修正をしつつも、本番に向けて少々不安を残す結果となってしまったのです。

A 研究者も「大丈夫かな？」という思いでしたが、リハーサル終了後に驚きと共に



固定概念を捨て 純粋な学びを求める

絵・わたなべじゅんじ

感動の光景を目にします。というのも、その挨拶実習のリーダーが、役員朝礼が始まるまでの時間、人目につかない場所で何度も何度も練習を繰り返していたのです。

普段は社員や取引先から一目置かれる存在の経営者が、「失敗をすまい」と一所懸命になっっている姿を見たA 研究者は、改めて「全国の倫理法人会は、このような方々に支えられているんだ」と深く頭の下がる思いになったのです。

倫理法人会は、生活の法則である「純粋倫理」を学ぶ場です。それは、時に「純情(スナオ)になる勉強」と表現されることもありえます。すなわち、倫理法人会という学びの場は「何か新たなものを身につける」というよりも、「今までに身につけてしまった余分なものを削ぎ落とす」と言ったほうが適切なのです。

日常の生活にある肩書きやプライド、そして価値観や先入観を捨てて、純(混ざりけが無い)に取り組む時、今までになかった自分になれるのです。更にその姿は、日々刻々と変化する予測のつかない事態や、どのような苦境をも真っ直ぐに受け切れる姿勢にも直結します。

A 研究者が驚きと感動をもって目にした挨拶実習担当の経営者のように、「日常に存在する自分」という固定概念を取り払い、まるで子供のように純粋に学ぶ心境を目指してまいります。